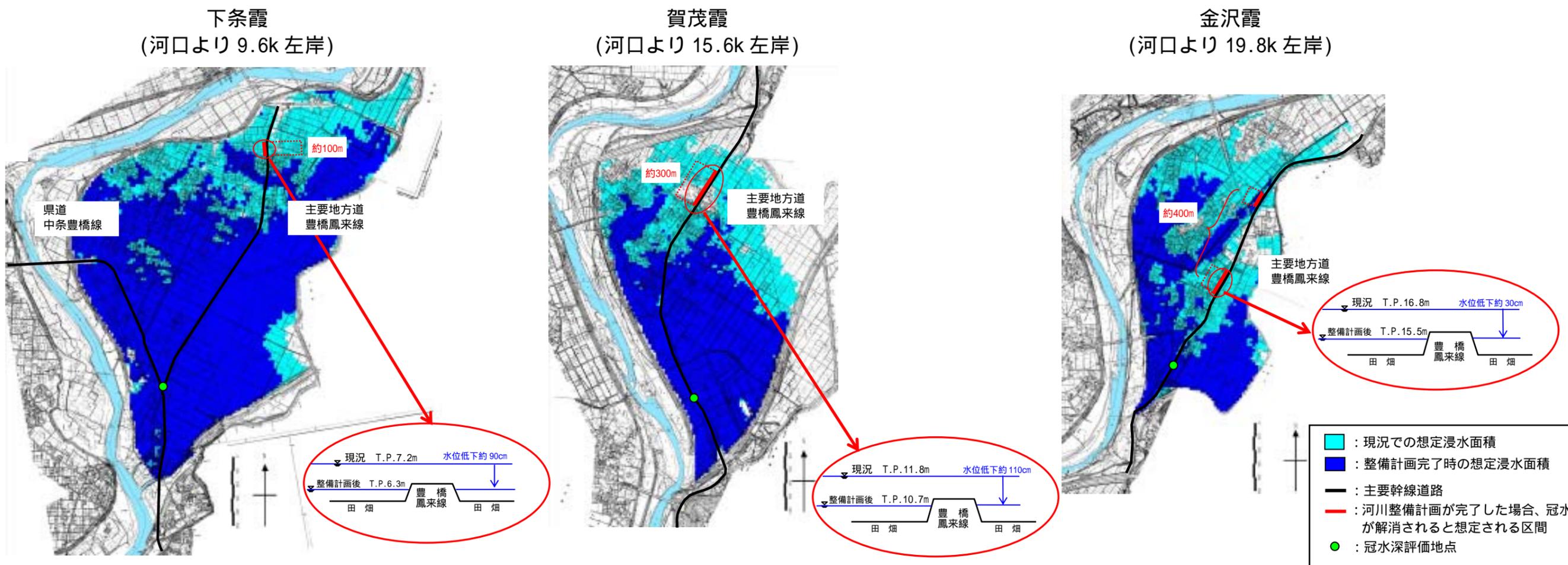


仮に整備計画（河道改修 + 設楽ダム）が完了していた場合、昭和44年8月洪水時の霞地区内の想定被害軽減



想定浸水面積の減少

約 80ha の減少  
( 想定浸水面積 390ha 310ha )

約 100ha の減少  
( 想定浸水面積 230ha 130ha )

約 80ha の減少  
( 想定浸水面積 180ha 100ha )

主要幹線の想定冠水区間と想定冠水深の減少

豊橋鳳来線 : 約 100m の冠水区間解消  
( 約 2.7km 約 2.6km )

豊橋鳳来線 : 約 90cm の冠水深低下  
中条豊橋線 : 約 90cm の冠水深低下  
( 想定冠水深 約 2.6m 約 1.7m )

豊橋鳳来線 : 約 300m の冠水区間解消  
( 約 2.3km 約 2.0km )

豊橋鳳来線 : 約 110cm の冠水深低下  
( 想定冠水深 約 3.3m 約 2.2m )

豊橋鳳来線 : 約 400m の冠水区間解消  
( 約 1.5km 約 1.1km )

豊橋鳳来線 : 約 130cm の冠水深低下  
( 想定冠水深 約 2.6m 約 1.3m )

豊川水系河川整備計画では、設楽ダムの建設に加え、河道改修等の治水対策を行うこととしています。  
なお、霞地区に係わる治水対策では、牛川霞地区は締め切り、他の下条・賀茂・金沢霞については、小提を設置し、浸水被害の軽減を図ることとしています。